

<特別セッション>

## 金融教育の最前線

座長：日本証券経済研究所 若園智明

<セッションの趣旨>

日本銀行の白川前総裁が2009年に「金融教育フェスティバル<東京>」で講演をされた際に金融教育の重要性に言及されていたように、金融教育はわが国の金融システムにとっても重要なトピックの一つになっている。これは金融庁による「金融レポート」と「金融行政方針」を統合した「変革期における金融サービスの向上にむけて～金融行政のこれまでの実践と今後の方針（平成30事務年度～）」の中にも金融経済教育が取り上げられていることからわかる。

そこで本セッションでは、従来からその重要性を指摘し、啓蒙・普及に取り組んできた中央銀行の担当者、金融業界の担当者、研究者の3者による報告をお願いした。大規模調査、教材作成、各種セミナーなどの様々な取り組みが行われていることを踏まえて、実務家の視点からわが国の金融教育の現状と、現場での取り組みについての知見、研究者からの視点としてミクロレベルで金融教育を積み重ねた結果、マクロ的にはどのような影響をもたらしているのか、というご意見をいただき、金融教育の取り組み、意義を整理したい。

第一報告ではOECD/INFE（International Network on Financial Education）の定例会議に日本銀行の担当者として出席するなど、国際的な潮流に最も詳しいだけでなく、国際的な取り組みの最先端におられる岡崎竜子氏（日本銀行情報サービス局金融広報課企画役・金融教育グループ長／金融広報中央委員会事務局・金融教育プラザリーダー）に、OECD/INFEでの近年の潮流を踏まえて、日本も含めて各国での金融教育についてご報告いただく。第二報告として民間の業界団体としての金融教育への取り組みについて、日本証券業協会の菊地鋼二氏（日本証券業協会常務執行役、金融・証券教育支援本部長）に業界としての取り組みをご報告いただく。第三報告として、日本の学生を対象とした金融リテラシーの実態調査や要因分析を行い、中央銀行のコミュニケーション戦略と金融リテラシーとの関係についての研究などを行っておられる北野友士氏（桃山学院大学）に今回は金融研究者という視点から、金融リテラシーの向上が金融政策や金融システムや実体経済とどのように関わりうるか、ご自身の取り組みや調査を踏まえてご報告いただく。